

ビールの6缶パックのリサイクルに挑戦!!!

多摩市ごみ減量担当課長 松平和也

今年の3月初旬のこと。国内最大手のマルチパックメーカーである「レンゴー・リバーウッド・パッケージング(株)」の社長と部長2名が突然多摩市を訪れました。

『マルチパックは燃やせるごみです』という写真入の多摩市の分別を公式HPで見た…というのが突然の訪問の理由でした。お話では「マルチパックは防水加工が施されているために古紙リサイクルの世界では厄介者扱われているけれど、単体で回収できれば立派にダンボールや板紙にリサイクルできる」ということと、外国の持続可能な管理森から切り出されたバージンパルプが原料で、質の良い紙であることを伺いました。消費者団体からも、この紙の使用について多くの批判をいただいている中で、回収ルートを作りリサイクルすることが社命と考えているため、何とか力をお借りしたいという申し入れでした。

朝日新聞 2010.7.8

時を同じくして、アルミつき紙パックの店頭回収を山田洋治商店と進めている最中でしたので、同じ回収ルートにマルチパックを載せられないかという相談をしました。

その時初めて知ったのは、店頭回収される牛乳パックやトレイなどの資源は、配送車両の戻り便で配送センターに集められ、これを山田洋治商店が回収していること。また11社会(チェーンストア11社のグループ)というのがあって、この会に所属するチェーンストアは埼玉県の同じ配送センターから製品を納入しているという事でした。「マルチパックの店頭回収は、量さえ集まれば可能です」と言ってくださった山田洋治商店の部長さんに感謝!です。

そして、最後の砦は…実際に各スーパーに、マルチパックの店頭回収に取り組んでもらえるのか!そこで6月3日に開催したエコショップ、エコショップスーパー事業者連絡会議に、レンゴー(株)と山田洋治商店にも同席いただき、マルチパックのリサイクルの意義についての説明や、店舗への回収容器の提供やPOPも2社が用意するという提案がありました。また、市としては「第3回お店に返そうキャンペーン」の一環として取り組みたいという提案と、マルチパックを持込んでくれた市民の方々に提供する景品(キティタンブラー、ベルディ風呂敷、電球型蛍光灯)を無償提供するというお話をしました。この結果、多摩市内の10店舗のスーパーに実施を快諾いただき、いよいよ8月からマルチパックの回収実験が始まります。

一例ですが、市内のサミットストア東寺方で4月に店頭回収された紙パックは6万3300枚。1日に2千枚以上回収されている計算になります。マルチパックの半分は、ばら売りするために各店舗で発生する事を考慮すると、1店舗で月に10万枚集まってもおかしくない計算になります。さて、実験の結果は…。ごみっと・SUNで報告します!

環境

エコロジー

紙リサイクルに厄介者?

防水加工の「マルチパック」



専用処理なら利用可能

紙リサイクルの世界では「厄介者」と呼ばれるマルチパック。防水加工が施されているため、古紙リサイクルの世界では厄介者扱われている。しかし、単体で回収できれば立派にダンボールや板紙にリサイクルできる。外国の持続可能な管理森から切り出されたバージンパルプが原料で、質の良い紙であることを伺いました。消費者団体からも、この紙の使用について多くの批判をいただいている中で、回収ルートを作りリサイクルすることが社命と考えているため、何とか力をお借りしたいという申し入れでした。

二つの再生ルート 混乱

紙リサイクルの世界では「厄介者」と呼ばれるマルチパック。防水加工が施されているため、古紙リサイクルの世界では厄介者扱われている。しかし、単体で回収できれば立派にダンボールや板紙にリサイクルできる。外国の持続可能な管理森から切り出されたバージンパルプが原料で、質の良い紙であることを伺いました。消費者団体からも、この紙の使用について多くの批判をいただいている中で、回収ルートを作りリサイクルすることが社命と考えているため、何とか力をお借りしたいという申し入れでした。